

# 思考力・判断力・表現力をはぐくむ地理的分野学習指導の工夫

～資料を活用した言語活動を通して～

うるま市立高江洲中学校 教諭 玉城 博

## I テーマ設定の理由

変化の激しい 21 世紀の社会は「知識基盤社会」と言われ、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断や変化に対応する能力が求められている。このような中、生徒に生きる力を育むことを目指し基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、言語活動の充実を図ることが重要となっている。

中学校学習指導要領解説社会編地理的分野においても、地図の読図や作図などの学習を通して思考力や表現力等の育成を図るとともに、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて意見交換したりするなど思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習活動の充実が求められている。

これまでの授業実践を振り返ってみると、教師主導による説明型の授業が多く、知識や技能に重きを置く偏った授業であった。また、資料活用する場においても、教師による資料説明が多かったことや、地図や写真、表やグラフなどの資料の読み取り方の指導が十分でなく、生徒が資料を活用して主体的に課題を考え思考し、表現する活動が少なかったように思える。

資料活用に関する意識調査によると、資料を基に自分の考えを持つことが難しいと答えた生徒 63%、読み取った資料を基に自分なりの意見や考え方をもち分りやすく説明することが難しいと答えた生徒 60%、資料を基に話し合いを通して他者と比較するなど共有することが難しいと答えた生徒 65%と多数を占め思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習活動の工夫が十分ではなかった。

本校において実施した、平成 26 年度沖縄県学力到達度調査の項目にある地理的分野「資料を読み取り関連付けて説明できる」調査項目にも課題が見られる。

このような課題を解決するためには、様々な資料を適切に収集・選択・活用して、社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに適切に表現するといった言語活動を取り入れる必要性を感じた。

本研究では、地理的分野の学習で、資料から情報を読み取り解釈するための「資料読み取りアプローチカード」を活用し、それをもとに複数の資料を比較して考察したり、一つの事象から別の事象を関連付ける活動や地図や統計資料を有効に活用して事象を説明や論述、意見交換したりするなど言語活動を通し、思考力・判断力・表現力をはぐくむことができるのではないかと考え本テーマを設定した。

## II 研究目標

資料を活用した言語活動を通して、思考力・判断力・表現力をはぐくむ地理的分野学習指導方法について研究する。

## III 研究仮説

### 1 基本仮説

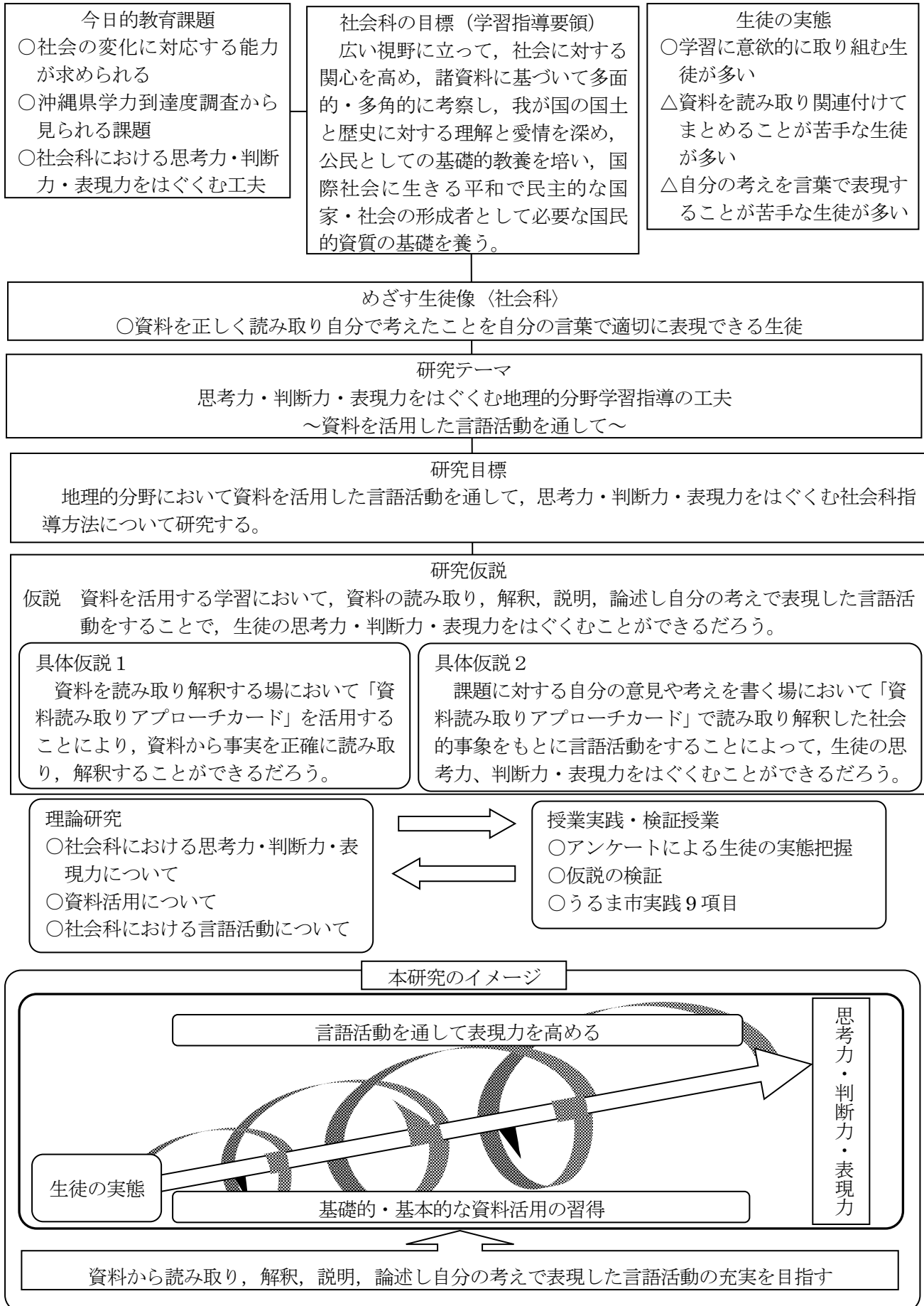
資料を活用する学習において、資料の読み取り、解釈、説明、論述などの言語活動を取り入れることで、生徒の思考力・判断力・表現力をはぐくむことができるだろう。

### 2 具体仮説

(1) 資料を読み取り解釈する場において「資料読み取りアプローチカード」を活用することにより、複数の資料から事実を正確に読み取り、解釈することができるだろう。

(2) 課題に対する自分の意見や考えを書く場面において「資料読み取りアプローチカード」で読み取り解釈した社会的事象をもとに言語活動を取り入れることによって、生徒の思考力・判断力・表現力をはぐくむことができるだろう。

#### IV 研究の全体構想図



## V 理論研究

### 1 社会科における思考力・判断力・表現力について

平成 23 年国立教育政策研究所教科教育センターにおいて社会的な「思考力・判断力・表現力」の観点  
を以下のように示している。

「社会的な事象から課題を見だし、社会的な事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、  
社会の変化を踏まえ公正に判断して、その成果や結果を適切に表現している。」

また、森分孝治（1997）は、「社会科教育で育成をめざす「社会的思考力・判断力」は社会的な事象に関  
する「知識」と、問いの構成と資料活用の技能を基盤とする「思考技能」とが一体化した能力であると捉  
える。」と述べている。

それを受け、加藤寿朗（2015）によれば、思考力・判断力とその内容を段階的に分類し、それぞれの思  
考力・判断力につながる「問い」の在り方、思考・判断の結果得られる「知識」を次のように整理し  
た。

表 1 授業における「社会的思考力・判断力」と「問い」・「知識」の関わり

問 い	社会的思考力・判断力とその内容		知 識
いつ、どこで、誰が、なにを どのように	事 実 判 断	資（史）料をもとに、事実を確定し記述で きる。	事象記述
なぜか、（その結果）どうなる のか、（時代の社会の）本質は何 か。	推 論	事象の原因、結果、意味や時代の社会の意 義・特質を解釈し説明できる。	事象解釈 時代解釈 社会の一般理論
～よいか（悪いか）、望ましい か（望ましくないか）	価 値 判 断	事象を評価的に判断できる。	価値的知識 （評価的知識）
いかに～すべきか	意 思 決 定	論争問題や論争場面において望ましい行 為や政策を根拠にもとづいて選択できる	価値的知識 （規範的知識）
その価値の背後にはどのよう な価値観や立場性があるか。 その知識は、どのような手続 き・方法により主張されている か	批 判 的 思 考	知識（言説）に内在する価値・立場を吟味 できる。 知識（言説）の主張の手続き・方法を吟味 できる。	メタ知識 （知識を解釈す るための知識）

これらの知識は、授業の実際においては生徒たちに、学習問題（問い）に対する資料活用をふまえた思  
考・判断の結果として習得されるだろうと述べている。

さらに小原友行（2009）は、社会科で育成する「思考力・判断力・表現力」を以下のように示した。

表 2 社会科で育成する「思考力・判断力・表現力」

思考力	「社会がわかる」ための問題「なぜ、どうして」を解決していくことができる力
判断力	「社会に生きる」ための問題「どうしたらよいか、どの解決策がより望ましいのか」を解 決していくことができる力
表現力	解決した情報を発信していくことができる力

以上のことを踏まえ、本研究においてそれぞれの力を以下のように定義し、指導を行う。

思考力：推論・意思決定・批判的思考をする力

判断力：事実判断・価値判断をする力

表現力：解決した情報を発信していく力

## 2 資料活用について

### (1) 社会科における「資料」とは

平成20年度の中央教育審議会答申では、社会科における資料活用の重要性を以下のように示している。

・・・コンピュータなども活用しながら、地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視する。

学習指導要領の改訂で示された言語活動の充実という視点からも資料を活用した活動を一層重視すると示されている。

林雄二郎（1990）によれば、「資料とは「情報のもととなる生の素材を指すのが本来の意味であるが、ある人が思考や判断を下すとき、その基礎となる材料一切をも資料と呼ぶ場合が多い。従って、資料それ自体は、無限にあり、無目的で、方向性を持っていないのである。」と述べている。

それを受け、高橋秀美（1990）は「学習のねらいの達成に最も適切な資料を選び出し、場合によってはICT機器に加工して、子どもの学習過程に即して用いられた場合、資料は教材となるのである。」と述べられている。学習指導要領に述べられている「資料」とは、このような教材として考えられるべきであると述べている。

また、檜原毅（2015）によれば社会科は、豊富な資料活用で授業を活性化できる科目である。見やすく加工された図表や統計グラフといった視覚的資料を添えれば、生徒の理解を高め、考察を促しやすくなる。その理由は、こうした資料が、社会的事象や仕組みの裏付けや「根拠」となり得るからである。」と述べている。

### (2) 社会科における資料活用能力とは

『社会科重要用語300の基礎知識』（明治図書2000年）によれば、『資料活用能力は、「既存の資料を収集、選択、読み取り、分析、批判するなど、自ら資料を作成、管理し、そのために必要な情報機器を活用する能力」とある。加えて、「資料活用能力の育成にあたっては、これらの資料活用能力の内実を選択・自覚し、それに即した授業を行うとともに、学習者の発達段階に応じて利用可能な資料の種類や量を精選することが大切」と述べている。

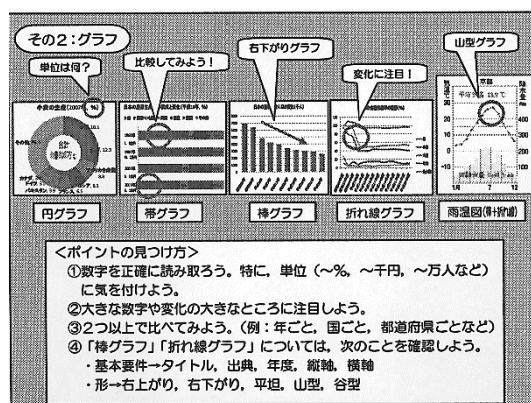
それを受け、檜原毅（2015）は各授業の、どの場面で、どのような資料を提示すれば、そこで何を導き出せるのかを綿密かつ明確に立案する。そのために、生徒の現状を見極めて、資料活用の技能をより一層高めるために有効な資料を吟味し、提示する。そして、事前に計画で練られた資料を適時に提示する実践的過程が必要になると述べている。

### (3) アプローチカードについて

社会的思考力・判断力・表現力をはぐくむためには、資料を多面的に読み取る力が必要である。本校生徒の実態として、資料の読み取り、解釈を苦手としている生徒も少なくない。そのために、資料を見るときポイントを的確に示したり、スモールステップで資料を読み取ったり解釈するアプローチカードを作成し活用する。

アプローチカードの作成にあたっては、中島一郎（2013）「中学校社会科における思考力・判断力・表現力等の育成をめざして」を参考にする。

表1 グラフにおける読み取りのポイント



出典「京都市総合教育センター」

### 3 社会科における言語活動について

次期学習指導要領改訂に向け学力観については「資質・能力」が、指導法については「言語活動の充実」にかわり「アクティブラーニング」がキーワードとして注目されている。

石井英真（2015）は「改革の方向性には変化がなく、アクティブラーニングは言語活動の延長線上に受け止められる。」と述べており、今後も言語活動の充実が重要であることを唱えている。

中学校学習指導要領社会科の社会科改訂の要点に、「言語活動の充実の観点から、社会的事象の意味、意義を解釈する学習や事象の特色や事象間の関連を説明する学習などを通して、社会的な見方や考え方を養うこと。」が明記されている。

また、地理的分野では、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの言語活動を充実させることが示されている。

実際の授業においては、問題解決的な学習などを一層充実させることや観察・調査や資料活用を通じて必要な情報を入手し的確に記録する学習、それらを比較・関連付け総合しながら再構成する学習、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習などに、読み取り・解釈・説明・論述の具体的な言語活動を考える際には、学習の方法についてだけを考えるのではなく、それぞれの言語活動の目的やその効果を明確にした上で、指導内容や授業形態の構築を目指していくことが必要であると考える。

これら四つの言語活動を小原（平成 20 年）は以下のようにまとめている。四つの活動を意図的に取り入れ、思考力・判断力・表現力をはぐくんでいきたい。

表 2 「読み取り・解釈・説明・論述」の具体的な内容（小原友行 2008）

①「資料から必要な情報を集めて読み取る」	用意された教材に関して発見した学習問題を解決するために必要な情報を収集するために、社会的事象や問題に対して「どのように、どのような」と問いかけ、収集した資料からその過程や構造・特色を抽出してまとめ、表現していく活動である。
②「社会的事象の意味意義を解釈する」	社会的事象や問題に対して「なぜ、どうして」と問いかけ、その背後にある問題場面での人間（個人・集団・組織体）が行った（行っている）問題解決行為の過程とその結果を「体験・追体験」させることを通して、人間の働き（行為の目的とその意味・意義）を目的・手段・結果の関係を軸に解釈し、共感的に理解していくことである。
③「事象の特色や事象間の関連を説明する」	社会的事象や問題に対して「なぜ、どうして」と問いかけ、その背後にある関係性を見つけ、それによって科学的に説明する活動である したがって、科学的知識（概念・法則・理論）を活用して問題の解決を求めていくことになる。
④「自分の考えを論述する」	社会的事象の中の問題や課題に対して、「どうしたらよいか、どの解決策がより望ましいか」と問い、自分なりの意見や考えを持ち、それを倫理的に表現する活動である。なお、この活動には、あらかじめ答えが用意されている場合と、そうでない場合の2つが考えられる。 前者の場合が「意思決定」であり、後者の場合が「社会形成」である。「意思決定」とは問題場面での自己の行為を科学的な事実認識と反省的に吟味された価値判断に基づいて選択・決定する活動である。 具体的には、「何をなすべきか」「何がなされねばならないのか」「どの解決法がより望ましいのか」と問い、目的・目標を達成するために考えられる手段・方法の中から最も合理的なものを選択・決定する活動である。 一方、「社会形成」とは、よりよい社会を形成していくために、社会的問題や課題を取り上げ、生徒が新たな制度設計や政策立案、あるいは合意形成などを図ったり、問題解決のための社会参画のプログラムを考え出したりする活動である。目的・目標を達成するための手段・方法を考えるという点では「意思決定」と「社会形成」は共通している。しかし、「意思決定」は、すでに明らかな複数存在する手段・方法の中からより望ましいものを選択し決定することが学習の中心であるのに対して、「社会形成」は既存の制度やしきみ、システムの代案を考えていくことが大きく異なっている。

## VI 指導の実際

### 1 検証授業 I

#### (1) 単元名

3 節 資源や産業の特色「3 日本の農業とその変化」

年間指導計画 12月指導内容

#### (2) 単元設定の理由

##### ① 教材観

本単元は、中学校学習指導要領地理的分野内容(2)「日本のさまざまな地域」の中項目イ「世界と比べた日本の地域的特色」の中の小項目(ウ)「資源・エネルギーと産業」を受けて構成する。

本単元では、世界的視野から日本の資源・エネルギーの消費の現状を理解させるとともに、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題を取り上げ、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を大観させることをねらいとしている。また、学習指導要領改定の趣旨では「地図の読図や作図などの学習を通して思考力や表現力等の育成を図るとともに、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて意見交換したりするなどの学習活動を充実させること」と示されている。

本単元の指導にあたっては、小学校5年生で「2 食糧生産を支える人々」の単元で学習をしている。本時の学習では、「3 日本の農業とその変化」について取り扱う。日本の農業の特色と課題を資料から必要な情報を的確に読み取らせ、相互の関連について、根拠を明らかにしながら解釈させたい。

また、自分の解釈を加えて論述したり意見交換をしたりするなど話し合い活動を充実させ学習内容を深めたいと考える。

##### ② 生徒観

事前に実施した地理的分野に関する意識調査によると、「山脈や国の名前を覚えるのが楽しい」「新しい国を調べるのが楽しい」など地理的分野に感心をもっているものの、資料活用に関する項目では、資料を基に自分の考えを持つことが難しいと答えた生徒63%、読み取った資料を基に自分なりの意見や考え方を持ち分かりやすく説明することが難しいと答えた生徒60%、資料を基に話し合いを通して他者と比較したり共有したりすることが難しいと答えた生徒65%と多数を占め、資料から事実を正確に読み取り、解釈、説明し、自分の考えや意見を論述することが苦手とする生徒が多いと考える。

そこで、資料から読み取った地理的事象と、既習事項や自分で調べたことを関連付け考察させ自分なりの考えや意見を説明、論述できる授業展開を考える。

##### ③ 指導観

本単元「3 日本の農業とその変化」の学習においては、小学校での既習事項を生かしながら、自然条件や社会条件との関係を考え、日本の農業地域や農業の特色を理解させる。

本時では、日本の農業の特色として、食料自給率の低い理由を「アプローチカード」を効果的に使って資料を読み取らせ、解釈し説明させたい。個人、ペア、グループと視点を絞って資料から読み取り、日本の食料自給率の低さに気づかせ授業展開を進めたい。一人で資料を読み取ることができなかつた生徒も、対話により資料を読み取る力がつくのではないかと考える。

さらにグループで協同して資料を読み取り、話し合いを行うことで思考力・判断力・表現力が深まると考える。

また、食料自給率の低い理由を資料から読み取った地理的事象を参考に、その課題解決の方法を自分なりに考えさせる場面を設定し、資料を分析した上で自分の意見に根拠を持って表現させたい。

うるま市実践9項目においても「言語活動の充実」が重点目標としてあげられており、本研究においても、具体的な言語活動を取り入れることにより、思考力・判断力・表現力をはぐくんでいきたいと考える。

(3) 単元の指導目標 (観点別評価基準)

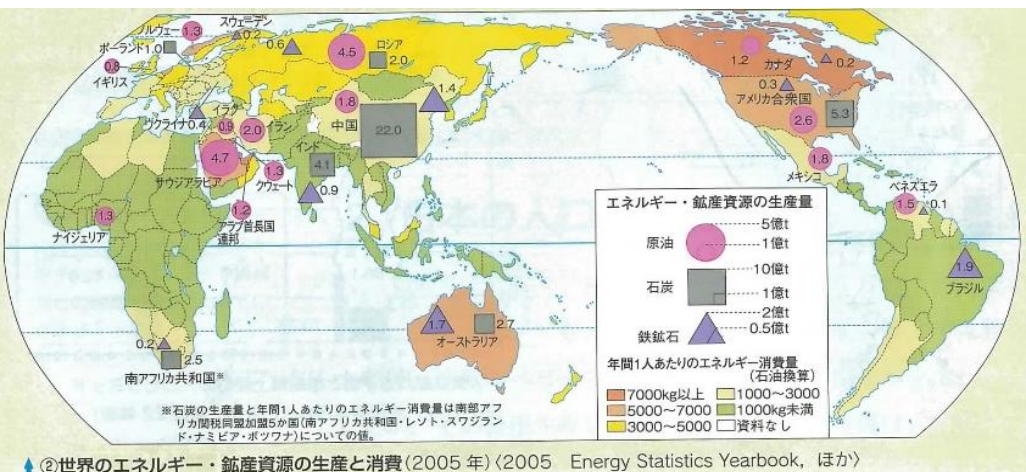
① 単元の目標

○ 世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を取り上げ、我が国の国土的特色を、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結びつきの視点から理解させる。

② 観点別評価基準

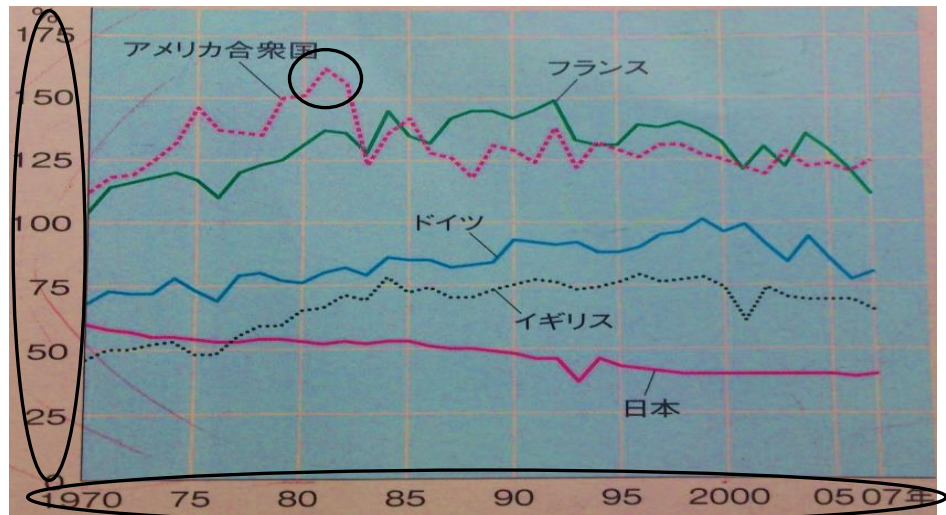
①社会的事象への関心・意欲・態度	②社会的な思考・判断・表現	③資料活用の技能	④社会的事象についての知識・理解
世界的視野から見た日本の地域的特色や、日本全体の視野から見たおおまかな国内の地域差に関心を持ち、それらを意欲的に追求し、捉えようとする。	世界と比べた日本の地域的特色を、「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「地域間の結びつき」の観点をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	世界と比べた日本の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択し、その情報から日本の地域的特色について読み取ったり、図表にまとめたりすることができる。	世界と比べた日本の地域的特色について、世界的視野や日本全体の視野から見た「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「地域間の結びつき」を理解し、その知識を身につけている。

(4) 本時までの指導計画

時	学習内容とねらい	指導上の留意点 実際に使用したアプローチカードから
1	<p>3 資源や産業の特色</p> <p>① エネルギー・鉱産資源の生産と消費</p> <p>○アプローチカードから鉱産資源の生産とエネルギーの消費にはどのような特色があるか読み取り解釈させる</p>	 <p>▲②世界のエネルギー・鉱産資源の生産と消費(2005年) (2005 Energy Statistics Yearbook, ほか)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">I 基本事項の確認</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">II 記号の読み取り</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">III 数値の読み取り</div> </div> <p>① タイトル(表題)に注目！</p> <p>② 年度はいつですか。</p> <p>③ 出典は何ですか。</p> <p>④ ○は何を表していますか。(単位は何ですか。)</p> <p>⑤ □は何を表していますか (単位は何ですか。)</p> <p>⑥ △は何を表していますか。(単位は何ですか。)</p> <p>⑦ 一番多いのは何ですか。</p> <p>⑧ 一番少ないのは何ですか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>○上図のアプローチカードから I 基本事項の確認 II 記号の読み取り III 数値の読み取りに視点をあて事象を正確に読み取り解釈させる。</p> </div>

② 世界の中の日本の産業

○アプローチカードから日本の産業の特色と変化を諸外国と比較して読み取り解釈させる。



I 基本事項の確認

II 軸の読み取り

III 変化の指摘

- ①タイトル(表題)は何ですか?
- ②年度はいつですか?
- ③出典は何ですか?

- ④縦軸は何を表していますか。(単位は何ですか。)
- ⑤横軸は何を表していますか。(単位は何ですか。)

- ⑥グラフが一番多いのはどこですか。
- ⑦グラフの変化が一番大きいのはどこですか。
- ⑧このグラフから、どんなことが言えますか。

○アプローチカードから①基本事項の確認②軸の読み取り③変化の指摘など事象を正確に読み取り解釈させる。

③日本の農業地域

○アプローチカードから日本の農業地域の特色を読み取り解釈させる。

扇状地の様子

①地形の特色はなんだろう。



果樹栽培が盛んな理由は

まとめるポイント

- ②なぜ日照時間が多いか
- ③地形の特色は何だろう



この資料からいえることは、



○アプローチカードから①地形の特色を読み取らせ、果樹栽培が盛んな理由を解釈させる。まとめるポイントを提示しさらに資料から読み取り解釈を深める。



(5) うるま市具体的実践9項目との関わり

実践9項目		本単元との具体的関わり
1. ねらいを明示した授業の実施	○	授業開始時に本時の「めあて」を提示する。
2. 教材・教具・説明の工夫	◎	資料の読み取りなど「アプローチカード」を使用する。
3. 板書の工夫	○	授業展開との関連性を工夫する。
4. 言語環境の整備と言語活動の実施	◎	ペア学習、グループ学習で言語活動の実施を行う。 地理的事象を読み取り解釈し地理的事象の視点を与え、自分の考えで表現する。
5. 形成的評価の実施	○	机間指導による確認
6. 習得したことを活用する場の設定	◎	習得した知識・技能を活用させる。
7. 自己評価の実施	○	授業の最後に自己評価を行う。
8. 家庭学習と授業の連動	○	復習の充実（基礎的・基本的な知識・技能の定着）
9. 学習習慣の確立	○	ベル席、学習用具のチェック、身なり等。

(6) 本時の学習 (11/16)

① ねらい

日本の食料自給率が低い理由を資料から読み取り解釈し、食料自給率を高める方法を自分なりに考えて表現することができる。

② 本時の評価規準


観点	学習活動における具体的な評価規準 (B)	(A) 十分満足できる	(C) の生徒への手立て
資料活用の技能	日本の食料自給率の変化とその要因を統計資料から読み取ることができる。	日本の食料自給率の変化とその要因を統計資料から読み取り解釈することができる。	アプローチカードから注目すべき視点を示すことで、資料を読み取ることができるようにする。
思考力 判断力 表現力	食料自給率を高めるための方法を自分で、考えて表現することができる。	食料自給率を高めるための方法を様々な意見を取り入れ根拠を持って表現することができる。	アプローチカードから読み取り解釈した記述を再確認することで、論述の根拠として活用できる知識に気づくようにする。


③ 本時の授業仮説

ア 資料を読み取り解釈する場において「資料読み取りアプローチカード」を活用することにより、資料から事実を正確に読み取り、解釈することができるであろう。

イ 課題に対する自分の意見や考えを書く場面において、資料から事実を正確に読み取り解釈した視点を与えることにより、食料自給率を高める方法を自分なりに考えて表現できるであろう。

④ 本時の展開

過程	学習活動と主な発問	形態	生徒の反応	指導の留意点	留意点評価
導入 5分	○小学校5年生で既習した学習を振り返る。 ○おもな国の食料自給率変化の資料から特色を読み取る。 発問1 日本の食料自給率の変化を読み取ろう。  1970年代約60%あった食料自給率が、2007年には約40%に落ち込んでいる。	一斉  個人  ペア	「稲作の様子だ」  「40%だ」 「アメリカ110%だ」 「1970年は60%だ」 「2007年には日本は40%になっている」	☆小学校の学習を想起させ日本の農業への関心を高める。 ☆資料から読み取る焦点を教師が提示する。 ☆個人で資料から読み取った地理的事象をペアで確認させる。 	【関・意・態】   【資料活用】 【実4】

展開 40分	○本時の目標を確認する。 目標：日本の食料自給率が低い理由を資料から読み取り、高める方法を自分なりに考えることができる。	一斉	「食糧自給率って日本は他国と比べて低い」	☆ねらいをしっかりと捉えさせる。 ★食料自給率の意味をしっかりと理解させる。 ★読み取る視点を教師側が指摘し、アプローチカードを使って資料から地理的事象を正確に読み取り解釈させる。 ☆食料自給率が低い問題点を資料から読み取り、意見交換し、まとめさせる。 ★グループで読み取ったことを発表させる。 ☆ねらいに沿ってまとめられるように助言する。	【実1】  【資料活用】 アプローチカードを活用
	発問2：日本の食料自給率が低い理由を資料から読み取りまとめよう。				
	○資料からできるだけ多くの地理的事象を読み取る。 ①輸入農産物の価格の違い ②農業就業人口の変化 ③耕作放棄地面積の推移 ○各グループで個人の読み取りをもとに考え、話し合う。 ○各グループが資料をもとに読み取った地理的事象など根拠を持って発表する。 ○資料から読み取った地理的事象を正確にまとめる	個人  グループ  個人	①「国内産は少ない」「外国産は多く購入できる」 ②「農業で働く人少なくなっている」「若い人も少ない」 ③「使われない耕作地多くなっている」		【実4】
	まとめ：輸入農産物の価格では国内産の生産費が高いため、価格が輸入農産物を上回り、農産物を輸入に頼るようになった。 1970年頃は農業就業人口は若者も多かったが、2008年には若者も減り、高齢化と後継者不足が考えられる。 昭和50年ごろは、耕作放棄地は少なかったけど平成22年度は約3倍も多くなった。				【実4】
発問3 食料自給率が低いとどういうことがおこるのでしょうか。	個人 ペア	「食料不足が起きる」「農家の生活が苦しくなる」 	☆自給率が低いことで起こるであろう事象についてペアで話し合うことで高めるための方法を促す。  ★資料から読み取った理由を根拠に考えさせる。	【実4】	
発問4 食料自給率を高める方法を考えよう。  ○資料から読み取った食料自給率が低い理由を根拠に考える。 ○まとめた内容を発表する。	個人 ペア	「安い外国産に勝つためには農作物を品種改良して価値を上げる」 「就業人口を増やすために村おこしをする」 「荒れた土地を有効活用する」	☆様々な解決法を取り上げこれからの農業政策の取り組みに関心を持たせ今日の学習を振り返らせる。	【実6】 【実4】 【思・判・表】	
まとめ 5分	○授業の振り返りを行い、まとめをする。	個人		○ねらいとの関連性を意識させ自己評価にまとめる	【実78】

<評価>① 日本の食料自給率が低い理由を読み取り解釈することができたか。

【資料活用】 [アプローチカード]

② 日本の食料自給率を高める方法を考え表現することができたか。【思考・判断・表現】

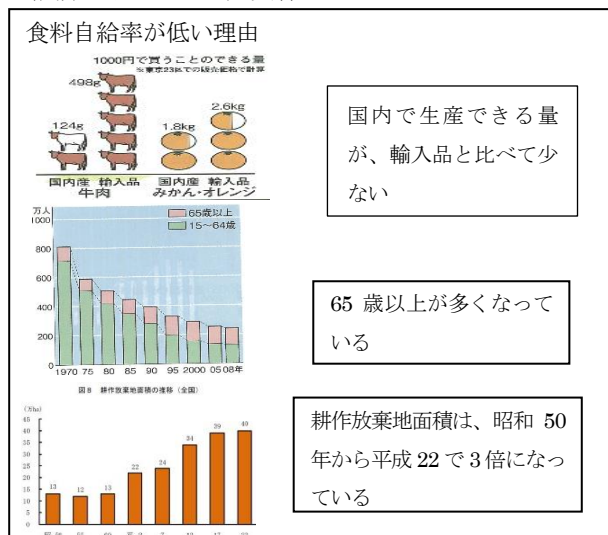
[ワークシート・発表]

⑤ 板書計画

「3 日本の農業とその変化」(p. 153～p. 154)

ねらい：日本の食料自給率が低い理由を資料から読み取り解釈させ、高める方法を自分の考えで表現しよう。

○食料自給率とは、国内の食料消費が国内の農業生産でどの程度作られているか



電子黒板

- ①小学校5年生教科書からの画像
- ②主な国の食料自給率の変化
- ③40% (上に上げる)

○食料自給率を高める方法を考えよう。

耕作放棄地面積を減らして農業就業人口を増やす。  
一人当たりの機械を増やすなど

2 検証授業Ⅱ

(1) 単元名

1節 九州地方「5 沖縄の自然環境とくらしや産業」年間指導計画1月指導内容

(2) 単元設定の理由

- ① 教材観 (省略)
- ② 生徒観

本学級の生徒は「3 日本の農業とその変化」の単元で、複数の資料からアプローチカードの活用により地理的事象を読み取った生徒は88%と効果的に活用できた。また、これまで資料を読み取ることを苦手としていた生徒も達成感を持つことができた。

資料読み取りでは、読み取る視点を与え、焦点化することにより複数の資料から必要な社会的事象を読む取ることができた。

しかし、資料から読み取った地理的事象を根拠に自分の考えを書けた生徒が全体の44%であり、自分の解釈を加えて地理的事象を根拠に自分の考えを論述することが苦手とする生徒が依然多い。そこで、資料から読み取った社会的事象と、既習事項や自分で調べたことを関連付け考察させた後、言語活動の場面においてグループで伝え合うことにより、資料から事実を正確に読み取り、根拠を明確に解釈して表現させたい。自分なりの思考過程を確認し説明、論述できる授業展開を考える。

③ 指導観

本単元の学習は「世界の様々な地域」の学習成果を踏まえ、日本及び日本の諸地域の地域的特色をとらえる学習を通して、国土の認識を深めて行く。

本時では、既習事項や生活体験から沖縄のイメージを発表させ、本時のねらいにつないでいく。その手立てとしてアプローチカード(資料を読み取るために着目する視点、根拠を明確にするための話形、伝え合う場の工夫などを掲示)を効果的に活用していく。

また、より多角的に解釈するための手立てとして、解釈したことをグループで伝え合う場を設定し、意見交流をもとに、自分の意見を見直し再度まとめる活動を取り入れる。

このような一連の活動は、うるま市実践9項目における「言語活動の整備と言語活動の充実」にもつながる活動であると考えられる。単元全体を通して上記の活動を取り入れることにより、社会科における思考力・判断力・表現力をはぐくんでいく。

3 単元の指導目標（観点別評価基準）

(1) 単元の目標

- 日本を七つの地域に区分し、それぞれの地域について、自然環境、歴史的背景、産業、環境問題、環境保全、人口や都市・村落、生活・文化、他地域との結びつきのいずれかの視点を中核とした考察の仕方をもとにして、地域的特色を捉えさせる

(2) 観点別評価基準

①社会的事象への関心・意欲・態度	②社会的な思考・判断・表現	③資料活用の技能	④社会的事象についての知識・理解
日本の諸地域の地域的特色に対する関心を持ち、それを意欲的に追究し、捉えようとする。	日本の諸地域の地域的特色を、七つの視点を中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。	日本の諸地域の地域的特色に関するさまざまな資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりすることができる。	日本の諸地域について、七つの視点を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解し、その知識を身につけている。

(3) 本時までの指導計画

時	学習内容とねらい	指導上の留意点 実際に使用したアプローチカードから
1	<p>1 九州地方 ～自然環境の視点を 中心にして～</p> <p>①九州地方はどのような地方だろうか</p> <p>○アプローチカードから九州地方の地形や気候の特色を読み取り解釈させる。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>那覇の気温と降水量</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>札幌の気温と降水量</p> </div> </div> <p>問. 沖縄県と北海道の雨温図を見て気づいたことは何ですか?</p> <p>①沖縄は年間通してどのような気候かな?</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> <p>○アプローチカードから①九州地方の気候の特色②九州地方の地形の特色を正確に読み取り解釈させる。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>読み取る視点</p> </div> </div> <p>②なぜこのような地形ができるだろうか?</p>

**②火山のめぐみと防災への取り組み**

○アプローチカードから温泉と観光産業、地熱とエネルギーを関連付け、自然環境が人々の生活や産業と深い関係にあることを読み取らせ解釈させる。

源泉数

県	源泉数
大分県	4788
鹿児島県	2824
北海道	2304
静岡県	2283
熊本県	1388

1分あたりの湧出量

県	1分あたりの湧出量 (万ℓ)
大分県	29.6
北海道	26.0
鹿児島県	20.1
吉森県	17.2
熊本県	13.2

△読み取る視点

問：源泉数と湧出量が多い地方は何地方ですか？

問：△地図記号は何を表しているだろうか？

アプローチカードから九州地方に源泉数と湧出量が多いことに視点をあて、その根拠となる理由を九州地方の地形から火山の分布に視点をあて解釈させる。

**③九州地方の都市や工業と自然環境**

○アプローチカードから九州地方の地理的条件に着目し、工業の現状や特色を読み取り解釈させる。

1960年 1兆245億円

2008年 23兆8006億円

読み取る視点

読み取る視点

問：出荷額が多い項目は何だろう？

アプローチカードから九州地方では機械工業に視点をあてその根拠となる理由をI C工場などの立地場所を根拠に解釈させる。

問：I Cの地図記号は何を表しているだろうか？

**④自然環境と農業の工夫**

○アプローチカードから九州地方の農業の特色を、気候や地形など自然条件との関係から読み取り解釈させる。

宮崎県の気温と降水量

問：九州地方や四国地方で野菜栽培が盛んな理由を考えよう。

①冬の気温に注目！

東京へ出荷されるピーマンの量と価格

②なぜ寒い冬に収穫するの？

トラックによる野菜の出荷

③どこの地域に出荷されるのかな？

冬の気温は

価格に注目

出荷量に注目

↓

●九州地方や四国地方で野菜栽培が盛んな理由は

**まとめるポイント**

①冬の気候は他県とどうだろうか。


②冬場の価格は都市部と比べどうだろうか。

③どこに出荷されるのだろうか。

↓

この資料からいえることは、

アプローチカードから①九州地方の気候②東京に出荷される量と価格③出荷される場所など事象を正確に読み取り解釈させる。



(1) 本時の学習 (6 / 7)

① ねらい

沖縄の産業の特色を、自然環境と関連づけて説明ができる


② 本時の評価

観点	学習活動における具体的な評価規準 (B)	(A) 十分満足できる	(C) の生徒への手立て
資料活用の技能	地図や写真から沖縄のくらしや産業の特色を自然環境と関連づけて読み取っている。	沖縄のくらしや産業の特色を自然環境と関連づけ視点を持ちながら読み取っている。	地図や写真・グラフの注目すべき部分を示すことで、資料を読み取ることができるようにする。(アプローチカード)
思考力 判断力 表現力	沖縄のくらしや産業の特色を自然環境と関連づけ考え、今後の発展を具体的な根拠を示しながら論述している。	複数の資料を用いて情報を吟味し具体的な根拠を示しながら自分の考えを論述している。	教科書や資料のキーワードを再確認することで、論述の根拠として活用できる知識に気づくようにする。

③ 本時の授業仮説

資料を読み取り解釈する場において「資料読み取りアプローチカード」を活用することにより、資料から事実を正確に読み取り、根拠を明確に解釈して表現できるであろう。

④ 本時の展開

過程	学習活動	形態	生徒の反応	指導の留意点	留意点・評価
導入 5分	1. 3つの写真から本時の課題をつかむ	一斉	「洞穴」「きく」「シーサー」	○学習課題に付いて興味関心を高める。 ○自然環境と関係がある項目、産業に関係がある項目に分け、ねらいの焦点化に迫る。	【関・意・態】
	2. 沖縄のイメージについて既習学習や生活体験から想起し発表する。	一斉	「暖かい」「海」「台風」「基地」「観光」「さとうきび」など		
	3. 本時のねらいを確認する。	個人		○ねらいを捉えさせる。	【資料活用】
	ねらい 沖縄の自然環境をいかしてどのような産業が行われているのだろうか。				
	4. 資料をもとに読み取り、解釈する。	個人	「さとうきびは暑い沖縄に適した作物だ」	○自然環境を根拠にして教師が助言を与える。	

<p>展開 40分</p>	<p>○資料から多くの社会的事象を読み取る。</p> <p>○読み取ったことを関連づけて根拠を明確にさせ解釈する。</p> <p>5. 各自の考えをグループで伝え合う。</p>  <p>6. グループで交流したことをもとに再度自分の考えをまとめる。</p> <p>7. 資料をもとに読み取った社会的事象を発表する。</p> <p>8. 学習のまとめをする ○今日のねらいを再度確認する。</p>	<p>個人</p> <p>個人</p> <p>グループ</p> <p>グループ</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p>	<p>「きれいな海、自然をいかした観光業が沖縄の魅力だ」</p> <p>「観光業では年々観光客が増え、今では700万人に達している」</p> <p>「さとうきびは、沖縄の基幹産業だったけど近年、前で学習した農業にみられるように安い外国産や後継者不足に悩まされている」</p> 	<p>○地図や写真・グラフなど読み取る視点を、アプローチカードを使って明確化させる。</p> <p>○アプローチカードを活用させ資料のデータをもとに根拠を持たせ比較、関連させ解釈させる。</p> <p>○伝え合う場面ではゆっくり丁寧の説明ができるように助言する。</p> <p>○相手の意見を加える場合は朱書きで書かせる</p> <p>○つまづいている生徒には友達の参考にして手本を見せる。</p> <p>○資料からねらいに沿った内容が書かれている生徒を数名発表させ全体で共有させる。</p>	<p>アプローチカードを活用 【実4】</p> <p>【実6】 【実4】 【思・判・表】</p> <p>【実6】 【実4】 【思・判・表】</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>沖縄県では、温暖な気候を活かした農業として、さとうきび、パイナップルなど盛んであった。近年安い輸入品に対抗するために、電照菊の栽培が増えています。</p> <p>また、豊かな自然環境を活かした産業として、観光業が盛んである。年間700万人の観光客が使うお金は、沖縄の経済を支えています。しかし、一方開発によって海が汚染されるなど環境問題も生じています。</p>	<p>○今日の授業のまとめを数名発表してもらう。</p>	<p>【実7 8】</p>		
	<p>9. 学習の振り返りを行う</p>	<p>個人</p>			

⑤ 板書計画

「5 沖縄の自然環境とくらしや産業」

(p. 174～p. 175)

ねらい：沖縄の自然環境をいかしてどのような産業が行われているのだろうか。

○沖縄のイメージは？

農業

観光業

さとうきびやパイナップル生産が盛んなど  
最近菊など花き栽培がさかんである。

観光収入が多い  
暖かい気候をいかして観光業が盛ん  
最近外国人が多いなど

<まとめ>

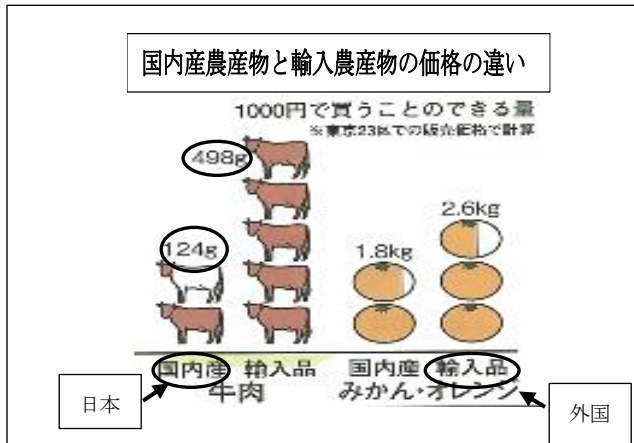
沖縄県では、温暖な気候を活かした農業として、さとうきび、パイナップルなど盛んであった。近年安い輸入品に対抗するために、電照菊の栽培が増えています。

また、豊かな自然環境を活かした産業として、観光業が盛んである。年間700万人の観光客が使うお金は、沖縄の経済を支えています。しかし、一方開発によって海が汚染されるなど環境問題も生じています。

## Ⅶ 仮説の検証

### 1 具体仮説（1）の検証

資料を読み取り解釈する場において「資料読み取りアプローチカード」を活用することにより、複数の資料から事実を正確に読み取り、根拠を明確に解釈して表現できるであろう。  
本研究において活用したアプローチカードを以下に示す。



問. 資料から食料自給率が低い理由を考えよう。

- ① 1000円で買うことのできる牛肉の量を比べよう。  
国内産→ ( ) g  
輸入品→ ( ) g
- ② 1000円で買うことのできるみかんの量を比べよう。  
国内産→ ( ) kg  
輸入品→ ( ) kg
- ③ ①、②から読み取れることは何でしょう。

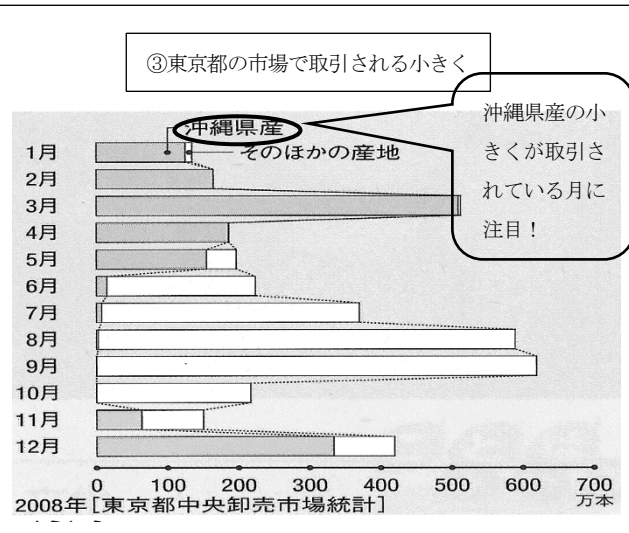
#### 検証1 アプローチカードの工夫

- ・資料から読み取り、解釈する表題を確認させる。
- ・資料から読み取り、解釈するためどの部分に着目するか、資料を見るときポイントを確認に示す。
- ・資料から読み取り、解釈するためスモールステップを活用し、根拠を持って自分の考えをまとめるようにする。

#### (1) 資料の読み取りの検証

検証授業Ⅰでは「日本の農業自給率が低い理由」を①国内産農産物と輸入農産物の価格の違い、②日本の農業就業人口の変化、③耕作放棄地面積の推移の地理的事象を読み取らせた。生徒の「アプローチカード」に記述されている内容を評価基準のもとに評価したところ、88%の生徒が正確に読み取ることができた。これは、スモールステップで読み取る視点を与えた「アプローチカード」を活用した結果である。

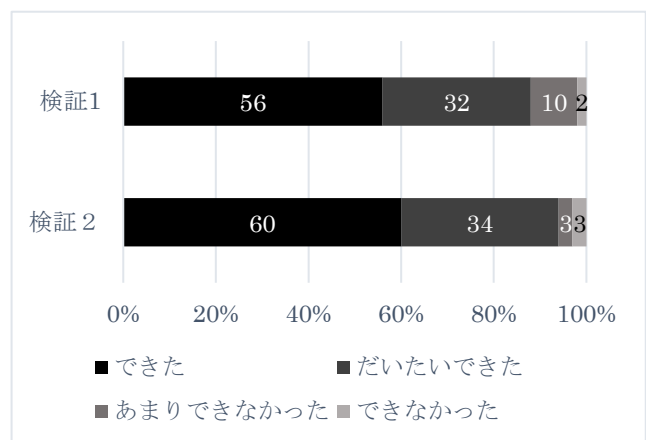
また、検証授業Ⅱでは「沖縄の自然環境をいかしてどのような産業が行われているか。」とねらいを設定した。



#### 検証2 アプローチカードの工夫

- ・資料から読み取り、解釈する表題を確認させる。
- ・資料から読み取り、解釈するためどの部分に着目するか、資料を見るときポイントを確認に示す。
- ・資料から読み取り、解釈するため吹き出しを活用し、根拠を持って自分の考えをまとめるようにする。

図1 資料から読み取りができた生徒の割合





沖縄の農業については①農産物産出額の推移, ②東京都の市場で取引される小菊, ③沖縄県農業人口の移り変わり, 沖縄の観光業については④沖縄県観光客数の変化, ⑤県外から沖縄にもたらせるお金, ⑥沖縄県産業別人口, ⑦沖縄の埋め立て地と埋め立て計画の地理的事象を読み取らせた結果, 94%の生徒が地理的事象を正確に読み取ることができた。これは, 吹き出しで読み取る視点を与えた「アプローチカード」を活用した結果である。と考える。検証Ⅰと検証Ⅱのアプローチカードから資料読み取りの割合を比較してみると, 検証Ⅱでは, 資料の読み取りが概ね達成できた生徒が6%増加している様子が分かる。

図2の生徒Aのアプローチカードを見るとスモールステップで資料を読み取る視点を与えることによりは既習事項を取り入れながら輸入農産物価格が低い理由を正確に書くことができた。

図2: 生徒Aのアプローチカードから 既習事項を取り入れている

海外は、日本に比べて、耕地面積や機械保有台数・穀物収穫量が多いので、1000円で買うことができる量では、日本より海外からきた輸入品のほうが安く買える。

資料から正確に読み取っている。

図3の生徒Bのアプローチカードを見ると農業の資料から, さとうきびの生産額を昭和と平成の生産額を吹き出しで読み取る視点を与えることにより, 生徒Bが比較して読み取っている。

図3: 生徒Bのアプローチカードから

**農業**  
 ・さとうきびは、昭和に対して、平成は生産額が少なくなっている。  
 ・果実は今も昔も生産額がない。  
 ・沖縄は冬も温暖の特色を活かして、他県がつかない時期に作って、冬場は沖縄が締めている。  
 ・農業人口が、平成2年と比べ、平成22年は、約30,000人減った。

資料から昭和と平成の生産額を比較して読み取っている

資料から沖縄と他県の小菊の取引量を読み取っている

また, 東京都の市場で取引される小菊の取引量を沖縄の気候と関連させながら読み取っていることが分かる。

(考察)

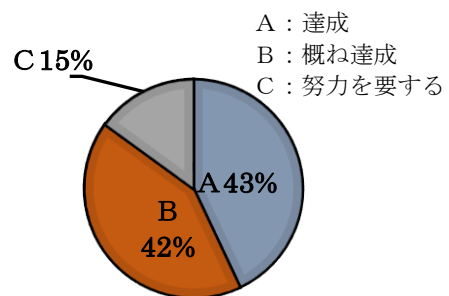
学級全体の「読み取り」の到達率と抽出生徒のアプローチカードの記述内容の結果, 必要な地理的事象を読み取る場面で社会的事象を読み取る視点を与えた「アプローチカード」は概ね有効であったと考える。

しかし, 単純に資料から情報を引き出し記述している生徒も多く見られた。普段の授業から資料を読み取る視点をより明確にし, 複数の資料を比較するなど, 資料をもとに事実を確定し記述する指導の工夫が必要である。

(2)「資料の解釈」における検証

検証授業Ⅱにおける実践をもとに「資料の解釈」に関する検証を行う。生徒の「アプローチカード」に記述されている内容の評価の結果, 「達成」「概ね達成」を合わせると85%の生徒が概ね達成できた。(図4)

図4: 検証2における解釈をした生徒の割合



資料から読み取ったことをもとに解釈を行った生徒のアプローチカードをみると, 図5の生徒Cのアプローチカードでは資料からなぜ, 沖縄県産の小菊が冬場に東京都の市場で取引される量が多い結果をもたらすのか, 沖縄の年間を通した暖かい気候を活かした自然環境と関連付けて原因を読み取り解釈している。

図5: 生徒Cのアプローチカードから

沖縄は年間を通して暖かいから栽培がしやすい  
 冬などの別のところでは育ちにくい時期につらしている。  
 また、豊かな自然環境もいかに観光客もたくさん  
 しか、観光のために埋立などで自然が失われている

事象の原因・結果を解釈している。

次に、グループで交流し友達の意見を付け加えて再度自分の考えで解釈させる活動を行った。

図6の生徒Dのアプローチカードではグループ交流から「小菊の電照栽培などを行い、時期を遅らせて、県産の小菊が多くうられている」という友人の意見を加えて自分なりに再度考え解釈している様子が分かる。

(考察)

以上のことから「アプローチカード」から読み取る視点を与えて解釈できたことは概ね有効であったと、考えられる。

しかし、さらにグループで交流し友人の意見を加えて自分なりに解釈を深めることができた生徒は、全体の17%に留まり課題が残った。

その要因として

- ①意見を伝える手立てなど、年間を通して指導が十分でなかった。
- ②資料から自分の考えを解釈させ根拠を持って表現させる指導が十分でなかったこと。などが上げられる。

## 2 具体仮説(2)の検証

課題に対する自分の意見や考えを書く場面において「資料読み取りアプローチカード」で読み取り解釈した社会的事象をもとに説明、論述し、言語活動を取り入れることによって、生徒の思考力・判断力・表現力をはぐくむことができるだろう。

### 【授業観察から】

日本の食糧自給率の低い理由を読み取り解釈した後、食料自給率を高める方法を、根拠を示しながら自分の考えを他者に論理的に文章で説明し、表現する活動を行った。その様子が写真7、写真8である。



写真7

グループになり個人で読み取り解釈した内容を意見交換しながら他者に論理的に説明している。



写真8

学級全体の場において読み取り解釈した内容から自分の考えを示しながら根拠を持って表現し共有化を図る。

資料から読み取り、解釈した後、根拠を示しながら、自分の考えを他者に論理的に文章で説明し表現している生徒のアプローチカードを紹介する。

図9の生徒Eのアプローチカードでは資料から食料自給率の低い理由の根拠を農業就業人口と耕地放棄地面積から関連付けて読み取り解釈して、食料自給率を高める方法として、農地面積の拡大や様々な農作物を作ることに視点を置き自分の考えをまとめている。

図6: 生徒Dのアプローチカードから

一年中温暖な気候をほかにし、さとうきびや、小菊の生産が盛んである。また、豊かな自然環境をほかにし、観光業も盛ん

自分の考えで解釈している



一年中温暖な気候をほかにし、さとうきびや、小菊の生産が盛んである。小菊は、電照栽培を行い、時期を遅らせて出荷する工夫もしている。

友人の意見を付け加えて再度自分の考えで解釈している。

図9: 生徒Eのアプローチカードから

・毎年農業をやる人が少なくなっているため、もともと農業に興味をもつて、たくさんの方が農業のしごとをする。  
・ビレなどをたたくには、もともと耕地面積を広くして、いろいろな野菜や果物をしごとができるようにする。

自分の考えをまとめている

資料から読み取り解釈している

図 10 の生徒Fのアプローチカードでは、資料から食料自給率の低い理由の根拠を海外の耕地面積や機械保有台数、穀物収穫量の違いを読み取り、解釈し食料自給率を高める方法として、農業体験やイベント、人材活用などに視点を置き自分の考えを文章でまとめている。

図 10：生徒Fのアプローチカードか

日本の農業就業の人口が減っていきるとともに、耕作地面積も減  
 もう一つの理由は、日本は、上のように減っているから、食べ物  
 比べて、海外は耕地面積や機械保有台数、穀物収穫量が多いため、日本の食  
 物に比べて、安い。 → 輸入品は、  
 日本の食料自給率を高めるためには、日本の農業就業の人口を増やすために、  
 農業体験・イベントなどをまかとする。 ← 自分の考えを文章でまとめている  
 農業をやっている祖父母や地域の農業をやっている人の手伝いなどをやる。

図 11 の生徒Gのアプローチカードでは、資料から食料自給率の低い理由の根拠を農業就業人口と耕作地放棄地面積と関連付けて読み取り、解釈し食料自給率を高める方法を身近な生活の中での取り組みに視点を置き、自分の考えを文章でまとめている。

図 11：生徒Gのアプローチカードから

まず、農業就業人口を増やし、そのかわしたことにより  
 耕作放棄面積を減らし、その面積が減少したことにより  
 食料自給率が上がる。  
 イベントや学校の授業などで農家の作業や食料作りなどをして  
 農業の楽しさなどをつたえて農業就業人口を増やす。

しかし、根拠を示しながら、自分の考えを論理的に文章で説明することができた生徒は、学級全体の44%に留まり課題が残った。

〈考察〉

「根拠を示しながら自分の考えを他者に論理的に文章でまとめる」ことが全体の44%という結果であった。

その要因として

- ① 書く時間を十分に確保できなかったことが上げられる
- ② 自分の考えを文章でまとめ表現するスキル（論述）の指導が十分でなかったことが上げられる。

社会科における思考力・判断力・表現力をはぐくむためには、本時で取り入れた、「読み取り」「解釈」「説明」「論述」という言語活動を単元計画や1単位時間の学習活動の中で計画的に取り入れる必要がある。

また、「説明」「論述」の仕方そのものを明確にし、生徒に指導することも今後の課題である。

3 学年末テスト（思考力・判断力・表現力の観点）の結果から

それぞれのテスト結果からみると、2学期期末テストでは学級全体の平均正答率は78.8%であった。正答率80%の通過率は、56%（37名中21名）であった。

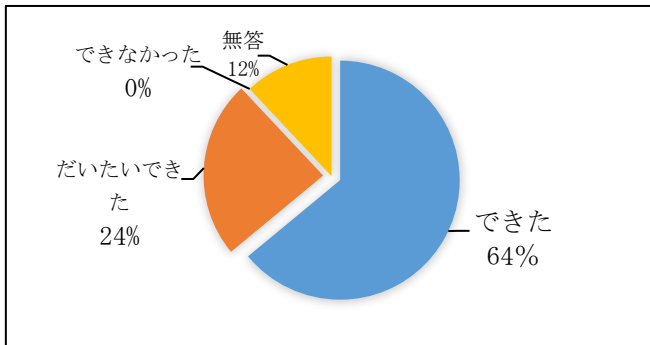
3学期学年末テストの学級全体の平均正答率は77.9%と2学期と比較し、-0.9%であったが、正答率80%の通過率は67%（37名中25名）で11%増加している。

以上の結果から、生徒の思考力・判断力・表現力がはぐくまれつつあることが分かる。

テスト名	正答率 (%)	正答率 80% の通過率 (%)
2学期期末テスト	78.8%	56%
3学期学年末テスト	77.9%	67%

#### 4 「生徒の自己評価から」

(1) アプローチカードを活用して、資料を読み取り解釈することができましたか。

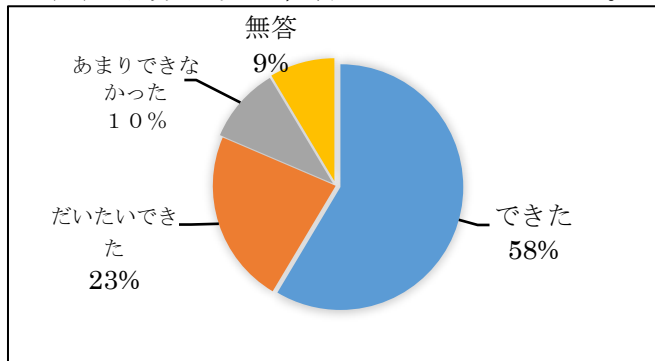


<分析・考察>

自己評価の結果から「できた」「だいたいできた」と自己評価した生徒が**88%**であった。「アプローチカード」で、読み取る視点をスモールステップで明確化することにより、資料読み取り解釈を苦手としていた生徒も達成感を持つことができた。

しかし、約**12%**の生徒につまずきが見られたため、題名やグラフの横軸・縦軸の把握など資料の基本的な読み取り方を習得させたり、資料を見るポイントを的確に示したりするなどの工夫が必要である。

(2) 自分の考えを、書くことができましたか。



<分析・考察>

検証前の10月にとった結果は「できた」「だいたいできた」と回答した生徒が**25%**であった。検証後は**81%**に増加した。

生徒が「解釈」「論述」した内容をみると「根拠を明確に示しながら記述している。」生徒の割合は低いことから、今後も継続した指導が必要である。

### VIII 研究の成果、課題と対応策

#### 1 成果

- (1) 地理的学習の資料を読み取り解釈する場において「アプローチカード」を活用することにより、複数の資料から地理的事象を正確に読み取り解釈する力が育まれつつある。
- (2) 1単位時間に説明、論述する場を設定したことにより、自分の考え根拠を明確にしながら表現することができるようになった。

#### 2 課題と対応策

- (1) 資料を読み取り解釈する場面で「アプローチカード」では、資料に表示された地理的事象の読み取りだけでなく解釈できる指導の工夫を考えていく。
- (2) 生徒の思考力・判断力・表現力を高めるために、読み取り、解釈、説明、論述する場を意図的、計画的に単元指導計画に位置づけ、一単位時間の学習形態の工夫を考えていく必要がある。

#### <参考・引用文献>

- ・文部科学省 (2008) 中学校学習指導要領解説社会編 東洋館出版社
- ・文部科学省 (2008) 言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】 教育出版株式会社
- ・原田智仁・海津正美 (2015) 教育実践学としての社会科授業研究の探求 風間書房
- ・林雄二郎 (1990) 情報活用能力を育てる学習 明治図書
- ・高橋秀美 (1990) 情報活用能力を育てる学習 明治図書
- ・檜原毅 (2015) 中学校社会科教育の実践と方法 清水書院
- ・片上宗二・森分孝治 (2005) 社会科重要用語 300 の基礎知識 明治図書
- ・岩田一彦・米田豊 (2011) 「言語力」をつける社会科授業モデル 明治図書
- ・京都市総合教育センター (2014) 中島一郎 (研究課研究員)  
「中学校社会科における思考力・判断力・表現力等の育成を目指して」  
—課題設定を重視した課題解決学習の在り方—
- ・小原友行 (2012) 思考力・判断力・表現力をつける社会科授業デザイン (中学校編) 明治図書
- ・石井英真 (2015) 今求められる学力と学びとは 日本標準教育研究所